



『何故か蘇ってきた？あのころの情景(感覚)!!』

ということ、ここでも、表面のI氏の書き物に關わって、私(堂本)なりの述懐を書き記しておきたい。それは、たとえ「〇〇世代」と呼ばれていなくても、我々の世代?には、れつきとした?それなりの時代情景(感覚)があったという事である!!それは、かの「高度経済成長期」を謳歌する前の、言わば「過渡(端境)期感」であるが(だから、〇〇世代と名付けられない?)、何らかの世代ではあったということである!!

しかるに、思い起こせば、田舎出身(佐賀県唐津市の農村地)の私達(当時はI氏のみ?以下、同じ)からすれば、大学進学のために移り住んだ大都会?広島(本当にそう思っていた!)は、すべてが驚きであり、新鮮であった!まさに純粹無垢な青年には(貧しかった!野球しかしてこなかった!)、とんでもない「時と場所」であった!だが、一方では、思わぬ世界も待ち受けていた!いわゆる「学園(大学)紛争」と呼ばれるものであるが、それは、私達の世界観を大いに動かし(創り?)、その後の奇妙な?人生をも導いてくれた(かなりの紆余曲折もあったが!)。

とは言え、当時の私達の思いや行動は、例えば、三田誠広の『僕って何』や村上龍の『限りなく透明に近いブルー』に、直ぐに列り取られ、今や、さだまさしや水谷豊らによって、別な花として植え替えられている(実はみな同じ歳↓否、三田は違う!)!!もちろん、それでよいのであるが、ただ私達には、もう一つの、『遅れてきた青年』(大江健三郎)が心のどこかにいる!!そう、私達は、勝手に?「遅れてきた(祭りは終わった?)!!」そう思っ生きてきたとも言えるが、その「祭り?」は、今も、どこかで、誰かが行い続けている!!否、見続けているとも!!

〇文章表現における「自分なりのこだわり」!!

さて、ここでも、ある意味?突然ではあるが、「自分なりのこだわり?」を開示してみよう!ただし、これは、私堂本よりも、I氏からの告白?であった方が良いのかもしれない!!それはともかく、我々の文章には、とにかく!!という表記がやたら多い!断言してはいけないという事でもあるが、最終的には、読み手側の同意によって、その位相?を決めたいということである(迷惑な話かもしれないが?)!もちろん、自分自身は、基本的には「!」という事ではある!!

他にも、「括弧書き」が多い。読み手にとっては、「極めて不評」だということも分かっているが(本当である!)、どうしてもそのようになってしまっ!そして、可能な限り、接続詞を入れる!節/段落間の関係を明らかにするたためであるが、書き手としての自分への意識づけという意味もある(ただし、同じ表現は使えないので、選択にはかなり苦慮している!)!とにかく、著述家としては、失格かも!!

〈短歌に託して〜まだまだ暑い!秋よ、早く来い!〜〉

・偽善 創善 金儲け?  
救いや感動あれば それもよし!!

・ある意味重なる 季節の贈答  
だが、その遣り取り 極めて貴重!!

・〇〇世代? 何と呼ばれようが 我が人生!  
無冠であつても それでよし!

・何故か蘇った あのころの感覚!  
でもそれは 自分だけの 〇〇世代!!

・自分なりのこだわり 客商売なら 法度!  
でもつながらば それで本懐!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ⑩

〇「倭国大乱」に端を発する、我が国の形(倭国↓日本)!!

ということ、ここからは、改めて、いわゆる北部九州(高良大社と背振山系周辺を中心とする地)で、どのような史実が展開されたのかということになるが、関わっている人物(多くは「神(命)姫」として登場している)としては、開花天皇(玉垂命)老松?、武内宿禰(藤原大臣?)、住吉大神(塩土老翁?)、神功皇后(息長帯姫)という事である!!もちろん、そこには「中国史書(魏志倭人伝)等」中の「卑弥呼」や「台与」、そして「帥升」「難升米」「狗古智卑狗」等!さらには、「天照大神」「素戔嗚命」「大國主命」「大物主/オオナムチ」、そしてさらには「大幡主(奴国王?)」といったところであるが、彼らが、どういう勢力で、どのように出会い、その攻防を繰り広げたかであるわけである!!

そこで、まず、改めて問題となるのは、その交わり・攻防の大きなきっかけであった?2世紀末の「倭国大乱」ということになるが、それはおそらく、それまでの盟主であった「委(倭)奴国」(博多湾沿岸地域)と、その隣国「伊都国」、そして、新たに登場してきた、内陸部の「邪馬台国」との、言わば三つ巴のせめぎ合いの経緯・形であるということになる(結局は、伊都国と邪馬台国が組んで、新たな連合国家を形成した?)!!

詳しいことは、ここでは示せないが、その経緯の中で、旧「委(倭)奴国」の王族や、それとつながりのあった「伊都国」の一部?王族達が、その地を離れ、山陰、近畿、九州南部、さらには半島南部等にも移動し、それぞれが、新たな生活の場を創り出していった!!そして、その中で、新たに大きな勢力を創り上げた「出雲」と「吉備」の勢力が、邪馬台国連合や中国、半島からの脅威を回避するためあつて、先に移動していた「尾張」「丹波」の集団(海部族?)とも力を合わせ、畿内大和で別な(新たな)中心を形成していった(↓嚮向遺跡)!「記紀」は、そこをもって、我が国のスタートとしているわけである!!改めて、それは何故か? (堂本)

〈編集後記〉とにかく、まだまだ暑い!時たま、涼しい風がペラペラから吹いてくるが、秋は、当分訪れそうもない!!それはともかく、書く(パソコンを打つ)という行為は、年毎に(極端に言えば日増しに)過酷となっている!!古代史の方はともかく、他の題材のラインナップ、そして、目、腰、臀部、下肢の不具合が、それに拍車をかけている!!でも、これしかないのだ!! (井上ノ堂本)